

IV 主な医薬品とその作用

61. かぜ薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a かぜ薬に配合されるブロメラインは、タンパク質分解酵素で、体内で産生される炎症物質（起炎性ポリペプチド）を分解する作用がある。
- b かぜ薬に配合される鎮咳成分であるコデインリン酸塩には、依存性がある。
- c かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、体内から除去することで、かぜの諸症状の緩和を図るものである。
- d かぜの時に消耗しやすいビタミンCの補給を目的として、リボフラビンが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

62. かぜ薬の配合成分とその目的とする作用との関係について、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

	配合成分	目的とする作用
a	ブロムヘキシン塩酸塩	くしゃみや鼻汁を抑える
b	イソプロピルアンチピリン	発熱を鎮め、痛みを和らげる
c	メキタジン	中枢神経系に作用し、咳を抑える
d	リゾチーム塩酸塩	鼻粘膜や喉の炎症による腫れを和らげる

- 1 (a、 b) 2 (a、 c) 3 (b、 d) 4 (c、 d)

63. 次の記述に当てはまる漢方処方製剤として、最も適切なものを1つ選びなさい。

体力中等度又はやや虚弱で、うすい水様の痰を伴う咳や鼻水が出るものの気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー性鼻炎、むくみ、感冒、花粉症に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸の弱い人、発汗傾向の著しい人には、悪心、胃部不快感等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

まれに重篤な副作用として、肝機能障害、間質性肺炎、偽アルドステロン症を生じることが知られている。

- 1 麻黄湯
- 2 葛根湯
- 3 小柴胡湯
- 4 小青竜湯
- 5 香蘇散

64. 解熱鎮痛薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a エテンザミドは、痛みの発生を抑える働きが作用の中心となっている他の解熱鎮痛成分に比べ、痛みが神経を伝わっていくのを抑える働きが強い。
- b アセトアミノフェンは、主として中枢性の作用によって解熱・鎮痛をもたらし、さらに末梢における抗炎症作用も期待できる。
- c 解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すものではなく、発熱や痛みを緩和するために使用される医薬品（内服薬）の総称である。

- | | a | b | c |
|---|---|---|---|
| 1 | 正 | 誤 | 正 |
| 2 | 正 | 正 | 誤 |
| 3 | 正 | 誤 | 誤 |
| 4 | 誤 | 誤 | 正 |
| 5 | 誤 | 正 | 誤 |

65. 解熱鎮痛薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a エテンザミドは、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合されることが多く、アセトアミノフェン、カフェイン、エテンザミドの組み合わせは、それぞれの頭文字から「ACE処方」と呼ばれる。
- b エテンザミド、アセトアミノフェン、イブプロフェンは、サリチル酸系解熱鎮痛成分である。
- c アスピリン（アスピリンアルミニウムを含む。）は、ライ症候群の発生との関連性が示唆されていることから、一般用医薬品では、15歳未満の小児に対しては、いかなる場合も使用してはいけない。
- d アスピリンは、他の解熱鎮痛成分に比べて、胃腸障害が起こりにくい。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

66. 眠気を促す薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 生薬成分のみからなる鎮静薬であっても、複数の鎮静薬の併用や、長期連用は避ける必要がある。
- b 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的な不眠症状の緩和に用いられるものであり、一時的な睡眠障害（寝つきが悪い、眠りが浅い）に用いられるものではない。
- c アリルイソプロピルアセチル尿素が配合された医薬品を使用した後は、眠気を催しやすいため、乗物又は危険を伴う機械類の運転操作を避ける必要がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

67. カフェインに関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 眠気防止薬におけるカフェインの1回摂取量は、カフェインとして200mg、1日摂取量は500mgが上限とされている。
- b カフェインは、反復摂取により、依存を形成するという性質がある。
- c カフェインは、腎臓におけるナトリウムイオン（同時に水分）の再吸収を促進する。
- d カフェインは、胃液分泌抑制作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

68. 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 乗物酔い防止薬には、3歳未満の乳幼児向けの製品はない。
- b ジフェニドール塩酸塩は、内耳にある前庭と脳を結ぶ神経（前庭神経）の調節作用のほか、内耳への血流を改善する作用を示す。
- c メクリジン塩酸塩は、他の抗ヒスタミン成分と比べて作用が現れるのが速く持続時間が長い。
- d カフェインは、脳に軽い興奮を起こさせて平衡感覚の混乱によるめまいを軽減させることを目的として配合され、また、乗物酔いに伴う頭痛を和らげる作用も期待される。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	誤	誤	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

69. 小児の疳を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 古くから伝統的に用いられており、作用が穏やかで小さな子供に使っても副作用がない。
- b 鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- c 夜泣き、ひきつけ、疳の虫等の症状を鎮めるほか、小児における虚弱体質、消化不良などの改善を目的とする医薬品である。
- d 症状の原因となる体質の改善を主眼としているものが多く、比較的長期間（1ヶ月位）継続して服用されることがある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

70. 鎮咳去痰薬とその配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a コデインリン酸塩は、母乳へは移行しないため、授乳中の人はその摂取に注意する必要はない。
- b 高齢者では、心臓病や高血圧、糖尿病や基礎疾患がある場合が多いため、アドレナリン作動成分やマオウを含む製剤を使用する前にその適否を十分考慮する必要がある。
- c 口腔咽喉薬の効果を兼ねたトローチ剤やドロップ剤に配合される殺菌消毒成分は、口腔内及び咽頭部において局所的に作用する。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

71. 口腔咽喉薬・うがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 口内炎などにより口腔内にひどいただれがある人では、刺激感等が現れやすいほか、循環血流中への移行による全身的な影響も生じやすくなる。
- b 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- c トローチ剤やドロップ剤は、噛み砕いて飲み込むことにより、殺菌消毒作用の効果が増す。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

72. ポビドンヨードが配合されたうがい薬（含嗽薬）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a ポビドンヨードは、炎症を和らげる目的で配合されている。
- b 銀を含有する歯科材料（義歯等）が変色することがある。
- c まれにショック（アナフィラキシー）、アナフィラキシー様症状のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。
- d 甲状腺における、ホルモン産生に影響を及ぼす可能性がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

73. 胃の薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 胃の不調を改善する目的で用いられる漢方処方製剤としては、安中散、人参湯（理中丸）、平胃散、六君子等があるが、これらはいずれも構成生薬としてカンゾウを含む。
- b ソファルコン、テプレノンは、胆汁の分泌を促す作用（利胆作用）があるとされ、消化を助ける効果を期待して用いられる。
- c 健胃薬に配合される生薬成分は独特の味や香りを有し、唾液や胃液の分泌を促して胃の働きを活発にする作用があるとされる。
- d 制酸薬は、胃液の分泌亢進による胃酸過多や、それに伴う胸やけ、腹部の不快感、吐きけ等の症状を緩和する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

74. 胃の薬の配合成分とその目的とする作用との関係について、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

	配合成分	目的とする作用
a	デヒドロコール酸	制酸
b	メタケイ酸アルミン酸マグネシウム	消泡
c	ゲファルナート	胃粘膜保護・修復
d	ピレンゼピン塩酸塩	胃液分泌抑制

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

75. 腸の薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a センナは、吸収された成分の一部が乳汁中に移行して、乳児に下痢を生じるおそれがあり、母乳を与える女性では使用を避けるか、又は使用期間中の授乳を避ける必要がある。
- b 酸化マグネシウムは、腸内容物の浸透圧を高めることで糞便中の水分量を増し、また、大腸を刺激して排便を促す。
- c ロペラミド塩酸塩は、中枢神経系を抑制する作用もあり、副作用としてめまいや眠気が現れることがあるため、乗物又は機械類の運転操作を避ける必要がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	正	正
5	正	誤	正

76. 次の胃腸鎮痛鎮痙薬に用いられる抗コリン成分に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 抗コリン成分には、ブチルスコポラミン臭化物、ジサイクロミン塩酸塩、パパベリン塩酸塩がある。
- 2 副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンと受容体の反応を妨げることで、鎮痛鎮痙作用を示す。
- 3 メチルオクタトロピン臭化物は、吸収された成分の一部が母乳中に移行する。
- 4 抗コリン成分が配合された医薬品を使用した後は、眠気等が現れることがあるため、自動車の運転を避ける必要がある。
- 5 排尿困難の症状がある人に使用すると、症状を悪化させるおそれがある。

77. 浣腸薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 繰り返し使用すると、直腸の感受性が高まり効果が強くなる。
- b 便秘になりやすい食生活等の生活習慣の改善が図られることが重要であり、浣腸薬の使用は一時的なものにとどめるべきである。
- c 注入剤は、半量等を使用する場合、残量を後で再使用してもよい。
- d 薬液を注入した後すぐに排便を試みると、薬液のみが排出されて効果が十分得られないことから、便意が強まるまでしばらく我慢する。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

78. 駆虫薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a サントニンは、そのほとんどが肝臓で代謝されずに腎臓で排泄されるため、腎臓病の診断を受けた人では、腎障害を悪化させるおそれがある。
- b パモ酸ピルビニウムは、蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示す。
- c ピペラジンリン酸塩は、ノルアドレナリン伝達を妨げて、回虫及び蟯虫の運動筋を麻痺させる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d カイニン酸は、回虫に痙攣を起こさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

79. 強心薬の配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a サフランは、アヤメ科のサフランの柱頭を基原とする生薬で、鎮静などの作用を期待して用いられる。
- b ジンコウは、ジンチョウゲ科のジンコウ、その他同属植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹皮が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、強壮などの作用を期待して用いられる。
- c センソは、ヒルガオ科のアサガオの種子を基原とする生薬で、これが配合された丸薬、錠剤等の内服固形製剤は、口の中でよく噛んで服用することとされている。
- d ゴオウは、ミカン科のキハダ又はフェロデンドロン・キネンセの周皮を除いた樹皮を基原とする生薬で、強心作用のほか、末梢血管の拡張による血圧降下、興奮を静める等の作用があるとされる。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

80. 貧血用薬（鉄製剤）に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 鉄製剤を服用すると便が赤くなることがある。
- b 主な副作用として、悪心（吐きけ）、嘔吐、食欲不振、胃部不快感、腹痛、便秘、下痢等の胃腸障害が知られている。
- c 硫酸コバルトは、消化管内で鉄が吸収されやすい状態（ヘム鉄）に保つことを目的に配合される。
- d マンガンは、糖質・脂質・タンパク質を代謝する際に働く酵素の構成物質であり、エネルギー合成を促進する目的で、硫酸マンガンが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

81. 次のユビデカレノンに関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 別名ルチンとも呼ばれる。
- 2 エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける。
- 3 肝臓や心臓などの臓器に多く存在する。
- 4 副作用として、胃部不快感、食欲減退、吐きけ、下痢、発疹・痒みが現れることがある。

82. 次の痔の薬に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 内用痔疾用薬は、比較的緩和な抗炎症作用、血行改善作用を目的とする成分等が配合されたもので、外用痔疾用薬と併せて用いると効果的である。
- 2 痔の原因となる生活習慣の改善を図るとともに、一定期間、痔疾用薬を使用してもなお、排便時の出血等の症状が続く場合には、早期に医療機関を受診して専門医の診療を受ける必要がある。
- 3 ヒドロコルチゾン酢酸エステルが配合された坐剤及び注入軟膏は、長期連用を避ける必要がある。
- 4 坐剤及び注入軟膏は、成分の一部が直腸粘膜から吸収されるが、循環血流中に移行することはない。

83. 次の泌尿器用薬に含まれる成分のうち、尿路の殺菌消毒効果を期待して用いられる成分として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 ソウハクヒ
- 2 カゴソウ
- 3 ウワウルシ
- 4 ブクリョウ
- 5 キササゲ

84. 婦人薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a カンゾウは、抗炎症作用を期待して配合されている場合がある。
- b エチニルエストラジオールは、妊婦でも使用できる。
- c トウキは、血行を改善し、血色不良や冷えの症状を緩和するほか、強壮、鎮静、鎮痛等の作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

85. 婦人薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 鎮痛・鎮痙作用を期待して、シャクヤクやボタンピが配合されている場合がある。
- b シアノコバラミンを摂取することにより尿が黄色くなることがある。
- c 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、モクツウが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	正
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

86. アレルギー用薬に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 一般用医薬品のアレルギー用薬は、主に一時的な症状の緩和に用いられる。
- b 排尿困難の症状がある人は、抗ヒスタミン成分を含む一般用医薬品の服用により、症状の悪化を招くおそれがある。
- c 内服薬と外用薬において、同種の作用を有する成分が重複することがあるが、投与経路が違うので、併用しても特に問題はない。
- d 母乳を与える女性がジフェンヒドラミン塩酸塩を含む一般用医薬品を服用しても、乳児には全く影響がない。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

87. 鼻炎用点鼻薬及びその配合成分に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎に対して有効である。
- b ベンゼトニウム塩化物は、陰性界面活性成分で、黄色ブドウ球菌、溶血性連鎖球菌や結核菌に対する殺菌消毒作用を示すが、ウイルスには効果がない。
- c フェニレフリン塩酸塩が配合された点鼻薬は、過度に使用されると、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- d スプレー式鼻炎用点鼻薬は、噴霧後に鼻汁とともに逆流する場合があるので、使用前に鼻をよくかんでおく必要がある。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

88. 次の鼻炎用内服薬及びその配合成分に関する記述のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

- 1 鼻閉への効果を期待して、サイシンが配合されている場合がある。
- 2 鼻汁分泌やくしゃみを抑えることを目的として、ベラドンナ総アルカロイド、ヨウ化イソプロパミドが配合されている場合がある。
- 3 鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸、トラネキサム酸が配合されている場合がある。
- 4 交感神経系を刺激して鼻粘膜の血管を拡張させることによって鼻粘膜の充血や腫れを和らげることを目的として、メチルエフェドリン塩酸塩が配合されている場合がある。

89. 眼科用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 点眼薬の使用によって、全身性の副作用が現れることはない。
- b 一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ鼻粘膜や喉から吸収されて、副作用を起しやすくなる。
- c 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはなく、配合されている成分によっては、緑内障の悪化につながるおそれがある。
- d コンタクトレンズをしたままでの点眼は、添付文書に使用可能と記載されていない限り行うべきでない。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

90. 殺菌消毒薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a マーキュロクロムは、ヨードチンキと混合すると不溶性沈殿を生じて殺菌作用が低下する。
- b オキシドール（過酸化水素水）は、一般細菌類の一部、真菌類、ウイルスに対する殺菌消毒作用を示す。
- c クロルヘキシジン塩酸塩は、結核菌や真菌類に対して比較的広い殺菌消毒作用を示すが、ウイルスに対する殺菌消毒作用はない。

	a	b	c
1	誤	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	正
5	正	誤	正

91. 皮膚に用いる薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a メントールは、皮膚表面に冷感刺激を与え、軽い炎症を起こして反射的な血管の拡張による患部の血行を促す効果を期待して配合されている場合がある。
- b ヘパリン類似物質は、血液凝固を促す働きがある。
- c ヒドロコルチゾンは、末梢組織の免疫機能を低下させる作用を示し、水痘やみずむしの症状を悪化させるおそれがある。
- d インドメタシンは、皮膚の下層にある骨格筋や関節部まで浸透してプロスタグランジンの産生を促す。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

92. 皮膚に用いる薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 人間の外皮表面には、化膿の原因となる「皮膚常在菌」が存在しているため、創傷部に殺菌消毒を繰り返し適用する必要がある。
- b 貼付剤を同じ部位に連続して貼付すると、かぶれ等が生じやすくなる。
- c 外皮用薬を一定期間使用しても症状の改善がみられない場合には、専門家に相談することが重要である。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

93. 歯痛・歯槽膿漏薬の配合成分に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a カルバゾクロムは、炎症を起こした歯周組織からの出血を抑える作用を期待して配合される場合がある。
- b アミノ安息香酸エチルは、齶蝕により露出した歯髄を通っている知覚神経の伝達を遮断して痛みを鎮めることを目的としている。
- c チモールは、歯周組織の血行を促す効果を期待して配合される場合がある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

94. 口内炎及び口内炎用薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 口内炎は、口腔粘膜に生じる炎症で、口腔粘膜上皮に水疱や潰瘍ができて痛み、ときに口臭を伴う。
- b 医薬品の副作用として口内炎が現れることはない。
- c 患部からの細菌感染を防止することを目的として、アクリノールが配合されている場合がある。
- d 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アズレンスルホン酸ナトリウム（水溶性アズレン）が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

95. ビタミン成分とその主な働きとの関係について、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

	ビタミン成分	主な働き
a	ビタミンC	メラニンの産生を促す
b	ビタミンE	体内の脂質を酸化から守る
c	ビタミンB1	腸管運動を抑える
d	ビタミンD	尿細管でのカルシウム再吸収を促す

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

96. 次の漢方処方製剤のうち、構成生薬としてカンゾウを含まないものを1つ選びなさい。

- 1 防風通聖散
- 2 麻黄湯
- 3 補中益気湯
- 4 葛根湯
- 5 半夏厚朴湯

97. カンゾウに関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 甘味料として一般食品にも広く用いられている。
- b 大量に摂取すると、グリチルリチン酸の大量摂取につながり、血栓症を起こすおそれがある。
- c 1日最大服用量がカンゾウ（原生薬換算）として1g以上となる製品は、長期連用を避ける。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	正	誤

98. 漢方の特徴や漢方薬の使用における基本的な考え方に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 患者の「証」（体質及び症状）に合った漢方処方を選択されれば効果が期待できるが、合わないものが選択された場合には、効果が得られないばかりでなく、副作用を招きやすくなる。
- b 漢方薬は、現代中国で利用されている中医学に基づく薬剤と同じものである。
- c 漢方処方製剤は、用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- d 漢方薬は、すべからず作用が穏やかで、重篤な副作用は起きない。

- 1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

99. 次の殺虫成分のうち、神経細胞に直接作用して神経伝達を阻害することにより殺虫作用を示す成分として、最も適切なものを1つ選びなさい。

- 1 フェニトロチオン
- 2 プロポクスル
- 3 ジクロルボス
- 4 フェノトリン

100. 尿糖・尿タンパク検査薬に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 中間尿ではなく出始めの尿を採取することが望ましい。
- b なるべく採尿後速やかに検査することが望ましい。
- c 尿糖値に異常を生じる要因は、一般に高血糖と結びつけて捉えられることが多いが、腎性糖尿等のように高血糖を伴わない場合もある。
- d 尿タンパク検査のための採尿は、激しい運動の直後は避ける必要がある。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	正

V 医薬品の適正使用と安全対策

101. 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 添付文書は、必要なときにいつでも取り出して読むことができるように保管される必要がある。
- b 「してはいけないこと」には、守らないと症状が悪化する事項、副作用又は事故等が起りやすくなる事項について記載されている。
- c 医療機関を受診する際には、使用した一般用医薬品の添付文書を持参し、医師や薬剤師に見せて相談がなされることが重要である。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正

102. 一般用医薬品の添付文書に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a リスク区分の記載を省略できる製品がある。
- b 通常の医薬品では、承認を受けた販売名が記載されている。
- c 添付文書の上部に「使用にあたって、この説明文書を必ず読むこと」等の文言が記載されている。
- d 重要な内容が変更された場合には、改訂年月を記載するとともに、改訂された箇所を明示することとされている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	正	正

103. 医薬品の適正使用情報に関する記述のうち、**誤っているものを1つ**選びなさい。

- 1 医薬品医療機器等法第52条の規定により、医薬品には、添付文書又はその容器若しくは被包に、「用法、用量その他使用及び取扱い上の必要な注意」等の記載が義務づけられている。
- 2 添付文書の販売名に薬効名が含まれているような場合には、薬効名の記載は省略されることがある。
- 3 添付文書は、臨時的な改訂を除き、医薬品の安全性等に係る新たな知見、使用に係る情報に基づき、2年に1回定期的に改訂されている。
- 4 医薬品の販売等に従事する専門家においては、購入者等への情報提供及び相談対応を行う際に、添付文書や製品表示に記載されている内容を的確に理解した上で、積極的な情報提供が必要と思われる事項に焦点を絞り、効果的かつ効率的な説明がなされることが重要である。

104. 医薬品の保管及び取扱いに関する記述の**正誤**について、**正しい組み合わせを1つ**選びなさい。

- a 錠剤、カプセル剤、散剤等の医薬品を、直射日光の当たらない涼しい場所に保管することが望ましいので、冷蔵庫内に保管している。
- b 小児の手が届かない、目につきにくい場所に医薬品を保管している。
- c 点眼薬は、家族間であっても共用していない。
- d 旅行へ携行するために医薬品を別の容器に移し替え、旅行後もそのまま携行用の医薬品として保管している。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	正	誤

105. 次の記述は、安全性情報に関するものである。()にあてはまる字句として、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

医薬品医療機器等法第68条の2第1項の規定により、医薬品の製造販売業者等は、医薬品の(a)及び安全性に関する事項その他医薬品の(b)のために必要な情報を収集し、検討するとともに、薬局開設者、店舗販売業者、配置販売業者及びそこに従事する(c)に対して、提供するよう努めなければならないこととされている。

	a	b	c
1	危険性	適正な使用	薬剤師や登録販売者
2	危険性	使用促進	一般従事者
3	有効性	適正な使用	一般従事者
4	有効性	適正な使用	薬剤師や登録販売者
5	有効性	使用促進	薬剤師や登録販売者

106. 安全性速報に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 医薬品又は医療機器について、一般的な使用上の注意の改訂情報よりも迅速な注意喚起や適正使用のための対応の注意喚起が必要な状況にある場合に作成される。
- b 厚生労働省からの命令、指示、製造販売業者の自主決定等に基づいて作成される。
- c A4サイズの印刷物で、ブルーレターとも呼ばれる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正

107. 厚生労働省が情報提供している「医薬品・医療機器等安全性情報」に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 医学・薬学関係の専門誌への転載は禁止されている。
- b 医薬品の安全性に関する解説記事や、使用上の注意の改訂内容、主な対象品目、参考文献等が掲載されている。
- c 厚生労働省において、重要な副作用、不具合等に関する情報を原則2ヶ月毎に取りまとめている。
- d 各都道府県、保健所設置市及び特別区、関係学会等へ冊子が送付されている。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	正	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	正	正

108. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構の「医薬品医療機器情報提供ホームページ」において、要指導医薬品及び一般用医薬品に関連した情報として掲載されている事項の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 製造販売業者等や医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報
- b 生産量及び生産額
- c 製品回収に関する情報
- d 「使用上の注意」の改訂情報

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	誤	誤
5	誤	正	正	誤

109. 医薬品の副作用情報等の収集、評価及び措置の内容に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a サリドマイド薬害事件を契機として、世界保健機関（WHO）加盟国を中心に、各国自らが医薬品の副作用情報を収集、評価する体制を確立することにつながった。
- b 製造販売業者等は、製造販売をし、又は承認を受けた医薬品の副作用等によるものと疑われる死亡症例の発生を知ったときは、その旨を30日以内に厚生労働大臣に報告しなければならない。
- c 2006年6月の薬事法改正により、登録販売者も副作用等の報告を行う医薬関係者として位置づけられている。
- d 各制度により集められた副作用情報は、厚生労働省において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき厚生労働大臣は、薬事・食品衛生審議会の意見を聴いて、安全対策上必要な行政措置を講じている。

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、d)

110. 次の医薬品のうち、**医薬品副作用被害救済制度の対象となるもの**を1つ選びなさい。

- 1 個人輸入により入手された医薬品
- 2 一般用検査薬
- 3 殺菌消毒剤（人体に直接使用するもの）
- 4 殺鼠剤
- 5 製薬企業に損害賠償責任がある不良な医薬品

111. 次の記述は独立行政法人医薬品医療機器総合機構が行っている業務に関するものである。()にあてはまる字句として、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

独立行政法人医薬品医療機器総合機構においては、関係製薬企業又は国からの委託を受けて、裁判上の和解が成立した(a)に対して健康管理手当や介護費用の支払業務を行っている。また、公益財団法人友愛福祉財団からの委託を受けて、(b)による(c)に対する健康管理費用の支給等を行っている。

	a	b	c
1	C J D患者	血液製剤	H I V感染者・発症者
2	C J D患者	キノホルム製剤	スモン患者
3	H I V感染者・発症者	サリドマイド製剤	スモン患者
4	スモン患者	血液製剤	H I V感染者・発症者
5	スモン患者	キノホルム製剤	H I V感染者・発症者

112. 次の記述は医薬品副作用被害救済制度の救済給付の請求に当たって必要な書類に関するものである。()にあてはまる字句として、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

要指導医薬品又は一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求に当たっては、(a)、要した医療費を証明する書類(領収書等)などのほか、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の(b)の作成した(c)等が必要となる。

	a	b	c
1	患者の健康被害届書	製造販売業者	相談受付書
2	患者の健康被害届書	製造販売業者	販売証明書
3	患者の健康被害届書	販売業者	相談受付書
4	医師の診断書	製造販売業者	相談受付書
5	医師の診断書	販売業者	販売証明書

113. 医薬品PLセンターに関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 公平・中立な立場で申立ての相談を受け付け、交渉の仲介や調整・あっせんを行っている。
- b 消費者が、医薬品又は医薬部外品に関する苦情（健康被害以外の損害も含まれる）について製造販売元の企業と交渉するに当たっての相談を受け付けている。
- c 製造物責任法が国会で成立するに当たり、裁判による紛争処理機関の設立が求められ、日本製薬団体連合会において開設された。
- d 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合の相談窓口として、推奨される。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	正	正
4	誤	正	正	正
5	誤	誤	正	正

114. 一般用医薬品の主な安全対策に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 解熱鎮痛成分としてアミノピリン、スルピリンが配合されたアンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用で、1959年から1965年までの間に計38名の死亡例が発生し、1965年、厚生省（当時）は関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- b 慢性肝炎患者が小柴胡湯を使用して間質性肺炎を発症し、死亡例もあったことから、1996年3月、厚生省（当時）より関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布が指示された。
- c プソイドエフェドリン塩酸塩については、2003年8月までに、配合された一般用医薬品による脳出血等の副作用症例が複数報告されたため、代替成分として塩酸フェニルプロパノールアミンへの速やかな切替えにつき指示がなされた。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正

115. 医薬品の適正使用に関する記述の正誤について、正しい組み合わせを1つ選びなさい。

- a 医薬品の適正使用の重要性等に関して、小中学校のうちから啓発を行うことが重要である。
- b 毎年10月17日～23日は、「薬と健康の週間」として医薬品の適正使用のための啓発活動が行われる。
- c 薬物乱用は、乱用者自身の健康を害するが、社会的な弊害を生じることはない。
- d 毎年6月20日～7月19日は、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動として国や自治体、関係団体等により薬物乱用防止の啓発活動が行われる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	正
2	正	誤	正	誤
3	正	正	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	正	誤	正

116. 次の医薬品成分のうち、添付文書の「してはいけないこと」の欄に、「次の人は使用（服用）しないこと」として「ぜんそくを起こしたことがある人」と記載されているものを1つ選びなさい。

- 1 カフェイン
- 2 スクラルファート
- 3 タンニン酸アルブミン
- 4 フェルビナク
- 5 リゾチーム塩酸塩

117. 次の医薬品成分のうち、添付文書の「してはいけないこと」の欄に、「次の人は使用（服用）しないこと」として「本剤又は本剤の成分、牛乳によるアレルギー症状を起こしたことがある人」と記載されているものを1つ選びなさい。

- 1 イソプロピルアンチピリン
- 2 ブチルスコポラミン臭化物
- 3 メキタジン
- 4 タンニン酸アルブミン

118. 添付文書の「してはいけないこと」の欄において、コデインリン酸塩が配合された鎮咳去痰薬（内服液剤）は、「過量服用・長期連用しないこと」と記載されているが、その理由に関する記述のうち、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a 無菌性髄膜炎の副作用を起こしやすいため。
- b アルミニウム脳症及びアルミニウム骨症を生じるおそれがあるため。
- c 倦怠感や虚脱感等が現れることがあるため。
- d 依存性・習慣性がある成分が配合されており、乱用事例が報告されているため。

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

119. 次の医薬品成分のうち、その成分が含まれる一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の欄に、「次の症状がある人」として「排尿困難」と記載することとされているものとして、正しいものの組み合わせを1つ選びなさい。

- a イソプロパミドヨウ化物
- b リゾチーム塩酸塩
- c クロルフェニラミンマレイン酸塩
- d ロペラミド塩酸塩

1 (a, b) 2 (a, c) 3 (b, d) 4 (c, d)

120. 一般用医薬品において、その成分としてロートエキスを含有する場合、添付文書の「相談すること」の欄に、「次の診断を受けた人」として記載されなければならない疾患名を1つ選びなさい。

- 1 てんかん
- 2 肝臓病
- 3 腎臓病
- 4 心臓病
- 5 貧血